再評価結果（平成２１年度事業継続箇所）

担　当　課：都市・地域整備局 街路交通施設課
担当課長名：松井　直人

事業名	ＪＲ山陽本線等連続立体交差事業（姫路駅付近）	事業区分	街　　路	事業主体	兵庫県
起終点	自：兵庫県姫路市市之郷 至：兵庫県姫路市岡田			延長	６．６km

事業概要

ＪＲ姫路駅付近の鉄道を高架化し、７箇所の踏切除却による踏切事故の解消及び交通道路等の整備による交通の円滑化を図るとともに、車両基地等の移転跡地を活用した土地区画整理事業等と一体となって中心市街地の活性化を図るものである。

Ｓ５１年度事業化	Ｓ６１年度都市計画決定	Ｈ元年度用地着手	Ｈ２年度工事着手
全体事業費	６０８億円	事業進捗率	９７％
供用済延長	６．６km		
踏切交通遮断量	１４７，８００台時／日		

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用	総便益	基準年
	(事業全体)　１．９ (残事業)　２０．７	(残事業)/(事業全体) 14/760億円 事　業　費：　14/759億円 維持管理費：0.16/0.68億円	(残事業)/(事業全体) 300/1,473億円 走行時間短縮便益：292/1,120億円 走行経費減少便益：　6.8/ 60億円 交通事故減少便益：　0.79/ 20億円 高架下利用便益：0.00 /273億円	平成２０年

事業の効果等

・円滑なモビリティの確保（踏切交通遮断量10,000台時/日以上の踏切の除却）
・都市の再生（市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり）
・個性ある地域の形成（鉄道や河川により一体的発展が阻害されている地区を解消）など３２項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

姫路市都市計画マスタープランにおいて推進すべき事業として位置付けられており、また、姫路市長、市議会議長、商工会、自治会、経済界等で構成される「姫路市鉄道高架促進期成同盟会」より、事業促進について国土交通省等各関係機関へ要望がなされている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

前回の再評価後、周辺の関連街路整備や土地区画整理事業が順次進捗している。（船場川線［延末工区］：Ｈ１８年度完成、姫路駅周辺土地区画整理事業：Ｈ２０年度末進捗率４４％(予定)　等）
また、Ｈ２０年１２月の高架化完成にあわせて、駅部高架下の一部で商業施設（プリエ姫路）が開業した。

事業の進捗状況、残事業の内容等

Ｈ１８年３月に山陽本線４．３kmの高架化（うち０．９kmはＨ９年度に高架化済）、Ｈ２０年１２月に姫新線１．３kmと播但線１．０kmの高架化が完成した。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

予定通りＨ２０年度に鉄道高架化を完成しており、引き続き、旧鉄道施設の撤去及び交差道路整備を促進し、Ｈ２２年度の事業完了を目指す。

施設の構造や工法の変更等

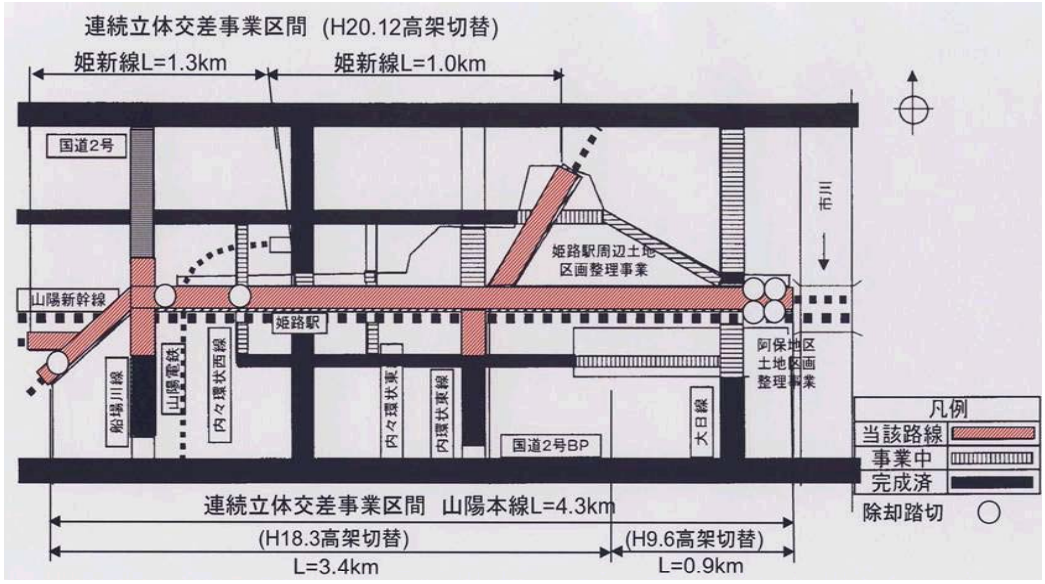
高架工事中に支障となる跨線橋撤去時の交通対策として迂回路橋を設置し、交通渋滞の緩和を図った。

対応方針　事業継続

対応方針決定の理由

多数の踏切の除却とあわせて交差道路や高架側道の整備を行い、都市交通の円滑化と踏切事故の解消、また土地区画整理事業等と一体となって駅周辺市街地の活性化を図るものであり、事業継続が必要である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。